

新しい契約

エレミヤ書 31:31~34

2024/8/14 松並徹治

31 節にはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ時代が来ると書かれています。では、このエレミヤ書が書かれた時代は、どのような時代だったのでしょうか。

7:3~8 を見ますと、生き方と行いを改めよと書かれており、また偽りのことばに信頼し、公正な裁きがなされず、立場の弱い者を苦しめており、ほかの神々に従っていたのです。しかし、そのような状況のなかでも、民は神殿で礼拝を捧げていました。ですから、そのような礼拝は真実のない形式だけのものになっていたのです。また、偽預言者は「これは主の宮、主の宮、主の宮だ」という偽りのことばを民に教えていました。神殿は神によって守られているので、神殿のあるエルサレムは滅んだり、崩壊したりはしないという間違っただけの考えを広めていたのです。また、自分たちは神に選ばれた民、という特別な意識がありました。しかし神に選ばれた者は神に聞き従わなければなりません。そのことについて、7:23 を見ますとこう書かれています。

『わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。』

つまり、この時代の人々の心は神から離れ、神の声に聞き従っていなかったのです。ですから、新しい契約が必要になるのです。また、現在に生きる私たちも、この時代の人々と同じように、自分の努力や力で、神に従うことのできない者であるということを感じたいと思います。

32 節にはエジプトの地から導き導きだした日に結んだ契約とありますが、これは出エジプト記 19 章から 24 章にある、シナイ山でモーセに語られた契約のことです。ですからこの契約のことを、シナイ契約または、モーセ契約と呼んでいます。契約の内容は十戒を中心とする律法です。出エジプト 19:8 で、民はみな口をそろえて「主の言われたことをすべて行います。」と答えましたが、守ることができなかったのです。

そのことについてパウロはロマ書 7:18~20, と 8:7 でこのように言っています。

7:18 私は、自分のうちに、すなわち、自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。私には良いことをしたいという願いがいつもあるのに、実行できないからです。

7:19 私は、したいと願う善を行わないで、したくない悪を行っています。

7:20 私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。

8:7「肉の思いは神に敵対するからです。それは神の律法には従いません。いや、従うことができないのです。」

ですから律法を守ろうという思いがあっても、守ることができないのです。だから、新しい契約を結ぶためには、先ず罪の問題を解決しなければならないのです。

また主は、新しい契約はシナイ契約のようではないと言われています。では新しい契約について見ていきましょう。新しい契約は民の心の中に律法が書き記されることではありますが、まず「わたしの律法」とは何かを知るために、ルカ 22:20 とローマ 8:2～4 を参考にしたいと思います。

22:20「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約です。」

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。

8:3 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。

8:4 それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

このみことばから、新しい契約とは、主イエスを信じることによって罪が赦され永遠の命が与えられることを言っており、これは福音のことであるといえます。

彼らのただ中に置きとは生活の中心に据えることであり、換言すればこの福音を信じ生きて行くことであると思います。そのためには、私たちの心の中に福音が、十字架が書き記されて行かなければならないのです。書き記すとは、常に心に留め続けることであります。私たちが礼拝を捧げるとき、賛美するとき、祈るとき、聖書を読むとき、又は教会でもたれる集会や聖会や修養会に参加するときに、十字架の福音が私たちの心に書き記されるのです。そうすることによって、私たちは神の子とされていくのです。

34 節にある、すべての者がわたしを知るようになるとはどういうことでしょうか。

先ず主を知るとは、知識を蓄えるだけではありません、そこに深い愛の交わりがあり、人格的なつながりを持つという意味の知るということです。換言すれば、主を愛すると言えるのではないのでしょうか。

つまり、イエス様の十字架のご愛を知り、その愛をいただくことによって、主を愛し、隣人を愛せるようになるのです。愛こそが律法を全うするのです。最後にローマ書 13:8～10 をお読みします。

13:8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。

13:9 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。

13:10 愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。